

平成28年6月20日

亀岡市議会議長 西口 純生 様

環境厚生常任委員長 馬場 隆

委員会調査報告書

当委員会で調査した事件の調査結果について、亀岡市議会会議規則第110条の規定により下記のとおり報告します。

記

- 1 派遣期間 平成28年5月17日(火)～19日(木)
- 2 派遣場所 福岡県古賀市、福岡県福岡市、佐賀県武雄市、福岡県久留米市
- 3 事 件 (1) 介護支援事業について、
高齢者の外出促進について(古賀市)
(2) 東平尾公園レベルファイブスタジアム(現地視察)
(3) 武雄市民病院の民間移譲について、
こどもの貧困対策課の新設について(武雄市)
(4) 子ども・子育て支援について、
子育て交流プラザ「くるるん」について(久留米市)
- 4 派遣委員 馬場隆、平本英久、富谷加都子、小川克己、奥村泰幸、
福井英昭
- 5 概 要 別紙のとおり

視 察 概 要

福岡県古賀市

平成28年5月17日(火曜日)午後2時00分～午後4時00分

視察項目：介護支援事業について、高齢者の外出促進について

古賀市の概要

人 口：58,346人

面 積：42.07 km²

市政施行：平成9年10月1日

議 員 数：19人



古賀市議会 結城議長挨拶



馬場委員長挨拶



担当課 説明



いきいきセンター「ゆい」見学



副委員長 お礼挨拶

福岡県福岡市

平成28年5月18日(水曜日)午前9時30分～午前10時30分

視察項目：東平尾公園レベルファイブスタジアム(現地視察)

福岡市の概要

人口：1,493,007人

面積：343.38 km²

市政施行：明治22年4月1日

議員数：62人



佐賀県武雄市

平成28年5月18日(水曜日)午後3時00分～午後4時30分

視察項目：武雄市民病院の民間移譲について、こどもの貧困対策課の新設について

武雄市の概要

人口：49,996人 面積：195.44 km²

市政施行：平成18年3月1日 議員数：24人



議会事務局 友廣局長挨拶



馬場委員長挨拶



担当課 説明



平本副委員長 お礼挨拶

福岡県久留米市

平成28年5月19日(木曜日)午前10時00分～正午

視察項目：子ども・子育て支援について、子育て交流プラザ「くるるん」について

久留米市の概要

人口：306,383人

面積：229.96 km²

市政施行：明治22年4月1日

議員数：38人



議会事務局 渡辺課長挨拶



馬場委員長挨拶



担当課 説明



「くるるん」にてNPOから説明



「くるるん」見学

視察先	福岡県古賀市 人口 58,346 人 面積 42.07 km ²
視察日時	平成 28 年 5 月 17 日 (火) 14:00 ~
視察等の名称	介護支援事業について 高齢者の外出促進について
視察の目的	・法改正のもとで、介護支援ボランティア事業がどう図られているか。スタンプカード活用等が、高齢者外出促進事業としてどう活用され効果を上げているか。認知症サポーター養成講座とは、どのようなものか。「徘徊高齢者捜してメール」の運用方法は、等々を学ぶ。
視察等の概要	<p>介護支援事業について</p> <p>背景（古賀市の状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口は安定しているが、高齢化率は徐々に上昇。高齢者のみの世帯が伸びている ・要介護（支援）認定者率は、全国や福岡県内と比べ、かなり低い。 <p>基本理念の視点</p> <p>高齢者の尊厳の確保 活力ある高齢期の実現 介護予防の推進 とともに生きる街づくり 利用者本位のサービスの確立</p> <p>介護予防の重点</p> <p>場所の身近さ 活動できる体力 一緒に活動する仲間 活動できる場所の確保 施設のバリアフリー 情報提供 やりたいことは高齢者により異なる。できるだけいろいろなものを揃えて選べるように。また、多くの人に情報が見えるように心掛けている。</p> <p>古賀市は過去、生涯学習に積極的に取り組んでいた。運動・スポーツ・文化について、地域でやるという土台ができていたことが介護認定率の低さに繋がっている。</p> <p>介護支援課が行っている介護予防の取り組み</p> <p>古賀市家トレCM体操・筋トレ 生き生き音学校（鍵盤ハーモニカで口腔を鍛える） 高齢者外出促進事業（おでかけハンドブック） 拠点整備（人材を育成し、学んだ人が地域で指導者に） 男性をいかに引き出すか（木工、男の料理教室）</p> <p>要支援、二次予防への取り組み</p> <p>地域包括支援センター（直営） 見守り ・緊急通報システム</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・見守りネットワーク ・徘徊高齢者捜してメール 事前登録者（認知症）の行方不明時、協力サポーター等にメールを一斉配信。福岡市の声かけにより近隣の市町が加わり広域配信開始。 ・認知症ジュニアサポーター養成講座 全小学生が認知症について授業で学び、サポーターに。 <p>高齢者の外出促進について</p> <p>事業内容 講演会やイベント等に参加してシールを集めると、景品が当たる抽選に応募できる。</p> <p>開始年度 平成24年度</p> <p>対象者 60歳以上（平成26年度までは65歳以上）</p> <p>対象イベント 市のイベント+地域のイベント</p> <p>事業費 平成27年度：約607千円</p> <p>効果 市内のイベントの見える化 外出の意欲付け 各イベントの活性化 新たな生きがいの創出 地域交流や見守りに繋がった。</p> <p>課題 民間企業やNPOとの共同 意欲付けに繋がる魅力的な商品 印刷費の増加 対象年齢の拡大 ルールが分かりにくいとの声</p>
<p>考察</p>	<p>介護支援事業では、5点に渡る基本理念を原点に、さらに生涯学習の視点から取り組みがされている点が大いに学ぶべき内容であった。何歳になっても、学習権の保障をベースに行っていくという行政姿勢は重要である。</p> <p>高齢者の外出促進事業で、景品を渡す方法について異論とする見方もあるが、高齢者が主体となって自己肯定感を培うことが、しっかり位置づけられていた。</p>
<p>委員の意見等</p>	<p><平本副委員長></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の外出促進は、改善を重ね、大変工夫されていた。サポートする側とされる側、双方へのポイント制などは、本市においても導入してはどうか。ただし男性をどう誘導するかが課題。 ・「徘徊高齢者捜してメール」は、登録者が限定されることと、

システム構築が課題。

< 富谷委員 >

- ・ 予防サポーターの養成について

多くの参加を促すため、本市でも有償ボランティア制度を活用すべき。登録手帳で貢献度も目に見えて確認でき、より活動への参加に拍車がかかることは間違いない。

介護事業所などの施設だけでなく、身近な場所で手伝いをされてもポイントが付くのが魅力。より近い地域で活躍できるところに共感する。

支援サポーターと指導者サポーターを区分けし、気軽に活動できる体制も工夫されている。

本市もポイント制の導入を視野に入れ、元気な高齢者の活動を後押しするような事業展開を望む。

- ・ 外出促進事業について

ポイントと景品により楽しみも増え、市の活性化にも寄与されている。

一歩踏み出すのに躊躇していた人も、手帳によりとりあえず参加することで仲間もでき、イベントにも興味が湧く。

財政的には、景品を抽選にしたところを参考にしたい。

< 小川委員 >

- ・ 介護予防を市全体のまちづくりとして取り組まれている。
- ・ 3年毎のアンケートによる高齢者の現状把握など、分析に基づく様々な取り組みは素晴らしい。
- ・ 「いきいきセンターゆい」など、生きがい活動ができる拠点があるのは介護予防・健康づくりなどに有効。
- ・ 「おでかけハンドブック」を作り、イベントに参加するとポイントがたまるという事業の発想が素晴らしい。自治会のイベント等の紹介にも繋がる。そこに人が訪れて交流になり、交流が高齢者のサポートにもなり、賑わいも生まれる。
- ・ 「徘徊高齢者探してメール」は、一斉に情報が伝達できる。いかに多くの高齢者やサポーターに登録してもらうかが課題だが、早期発見・事故防止に繋がる。

< 奥村委員 >

- ・ 景品には賛否あるが、高齢者の引きこもりが少なくなり、健康増進に繋がっている。
- ・ 引きこもりがちな高齢者が自宅でも運動できるよう、市職員が考案した「家トレCM体操」はテレビや新聞で話題になったようである。高齢者保健福祉計画、介護保険事業計

	<p>画の「いつも健康 いつでも安心 誰もがいきいき」を実践している職員の熱意が伝わってきた。</p> <p><福井委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタンプにより、地域ごとに行われるサロン等への参加を促すしかけをしており、ターゲットを定めた施策に熱意をもって取り組む重要性が分かった。 ・生涯学習の考え方を介護予防に取り込んでいるのが印象的であった。本市の生涯学習の理念は、もっと使えるのではないか。
--	--

視察先	福岡県福岡市 人口 1,493,007 人 面積 343.38 km ²
視察日時	平成 28 年 5 月 18 日 (水) 9:30 ~
視察等の名称	東平尾公園レベルファイブスタジアム (現地視察)
視察の目的	<p>今後、第 4 次総合計画後期基本計画に基づき、京都スタジアム (仮称) を新たなランドマークとして、スタジアム、京都・亀岡保津川公園を生かしたまちづくりの具現化が必要となる。</p> <p>他市における同規模の球技専用スタジアムの立地について見聞することにより、本市スタジアム・都市公園の整備におけるまちづくりの課題、展望を得ることを目的に、施設の視察を行う。</p>
視察等の概要	<p>福岡市都市公園 東平尾公園 (総合公園)・博多の森「レベルスタジアム」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理 公益財団法人福岡市緑のまちづくり協会公園管理事務所 ・供用開始 平成 7 年 7 月 13 日 ・建設費 約 100 億円 ・建築面積 13,935 m² ・敷地面積 58,600 m² ・延床面積 22,874 m² ・収容人員 22,563 m² ・階 数 地上 5 階、地下 1 階 (体育館) ・利 用 Jリーグ・アビスパ福岡ホームスタジアム、ジャパンラグビートップリーグ (試合) 等、年間 45 回程度 ・一般駐車場 立体駐車場 148 台、公園内各所 600 台 <p>課題事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園内の陸上競技場の大会と重なる場合等では、周辺施設の駐車場を合わせて約 3 千台分確保しても不足する状況で

	<p>あり、駐車場の確保が大きな課題となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラグビー、アメリカンフットボールの用途もあることから、芝生の傷みがひどく、年間60日程度の使用が限度となる。芝生の管理費用は年間1200万円程度を要しているが、他のスタジアムよりも経費を抑えられている。 ・サッカー、ラグビー等のライン変更（ペイント）には最低中3日は空ける必要があり、日程調整が困難な場合がある。 <p>京都スタジアム（仮称）基本設計（参考）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築面積23,100㎡、地上5階、地下1階、収容人員20,428人
委員の意見等	<p><平本副委員長></p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッカーやラグビーなどの試合をシフトに多く組み入れ、採算性を重視し、非常に工夫されている。 ・本市もサッカーに限定することなく、多種多様な活用法を検討すべき。来場者の駐車場確保と道路整備は大きな課題。 <p><富谷委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市も駐車場不足や渋滞対策は必須課題。JRの利用も選択肢だが、市内観光を望むには、より公共交通の整備が必要となる。 ・コンサートホール等、スポーツ以外にも多目的活用できるのがベスト。にぎわい拠点としての機能の充実に知恵を絞りたい。その前にももちろん安全対策の完備が必要。 <p><小川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・芝生管理費が思った以上に安い。グリーンキーパーと言われていたが、試合後の芝管理がすごい。管理に対する工夫と情熱を感じた。 ・スタジアムは多目的に、公式試合、球技以外にもコンサートなどができ、たくさんの人が集う場所になればと考える。 ・公共交通のアクセスと駐車場整備が不可欠。駐車場は、緑とともに車が止められるようなスペースとし、一体的なスタジアム・公園が良いと感じた。 <p><福井委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッカー以外にラグビー、アメフトを実際に行っている。芝の養生を実践できており、養生費も格別に安い。 ・大分のスタジアムも高校・中学校サッカー、ラグビー等をさせていた。年間20試合しかできないことはない。

視察先	佐賀県武雄市 人口 49,996 人 面積 195.44 km ²
視察日時	平成 28 年 5 月 18 日 (水) 15:00 ~
視察等の名称	武雄市民病院の民間移譲について こどもの貧困対策課の新設について
視察の目的	武雄市民病院が経営危機に陥る中で、民間医療法人へ移譲の結果となった。その経過概要と、市民生活への影響、医療サービス体制について学ぶ。 子どもの貧困が社会問題化しているが、基礎自治体として、その対策をはかる課の設置の背景、実際の自治体業務の内容を学ぶ。
視察等の概要	<p>武雄市民病院の民間移譲について</p> <p>武雄市民病院の誕生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立療養所武雄病院を払い下げ、平成 12 年開設 (一般病棟 135 床、結核病棟 20 床)。 ・ 当初は内科・外科・リハビリテーション科 地元と話し合い、10 年を経て診療科を増やした。 ・ 山の中腹に立地、交通の便が悪かった。 <p>改革の議論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 20 年度：累積欠損金が約 10 億、当期純損益が 3.9 億。 ・ 庁内で経営改革検討委員会を立ち上げ、経営改革基本方針を策定。経営形態の見直しと医師の確保が必要とした。 ・ 市議会では特別委員会が発足。医師不足の解消を喫緊の課題とした。 <p>民営化の方針決定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市は平成 20 年に市民病院改革ビジョンをたて、民営化を方針決定。さらに、「武雄市民病院改革ビジョン」策定。 ・ 医師の確保の面で、地方独立行政法人より民間移譲を選択。 ・ 公募に手を挙げた 2 法人が、公開市民説明会にてプレゼンを行う。 ・ 選考委員会では、医局に頼らない医師の確保が行われていたことが決め手となり、提案法人が決定。 <p>医師会の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 民間移譲方針発表後、地元医師会が乳幼児健診等、市と協力して行っていた事業を行わないと緊急声明。 対立候補を擁立・リコール活動に発展。 ・ リコール前に再選挙を実施。結果、前市長が再選され、民意も民間移譲を選んだと判断された。

新武雄病院へ

- ・平成22年2月に移譲。国道近くの商業地の一角に移転。
- ・入院患者数3倍、救急受入数14倍、手術件数17倍、患者数3倍に。
- ・職員数が増加しただけでなく、病院の周りに薬局やコンビニ等もでき、雇用も増加。税収は、固定資産税・市民税で約8500万円。
- ・移譲の条件として、10年間は評価委員会を行うこととした。新病院が業務報告書を学識経験者等から構成する評価委員会に提出し、質疑を経て、委員会が評価や改善勧告を行う。

こどもの貧困対策課の新設について

組織

- ・平成27年8月に機構改革があり、幼稚園、保育園、小・中学校連携のため、保育園や放課後児童クラブが「こども部未来課」から教育委員会の部局に移動に。
- ・貧困の連鎖を断ち切るためには、特に教育の支援が必要との考えから、教育委員会の中にこどもの貧困対策課を設置。
- ・「こどもの貧困対策課みんなの笑顔係」の職員は9名、全員が兼務。

これまでの取り組み

- ・「子どもの困りを見つけるための調査」を実施。小・中学校や保育所・幼稚園の教職員等に、実際に困っている子どもがいないか8項目にわたり調査を行った。

年齢が上がるにつれて、困っている子どもが増えていた。

- ・平成28年度は、仕事 居場所 住まいをキーワードとし、ひとり親家庭の支援に取り組む。

仕事：「自立支援教育訓練給付金」は、スキルアップするための資格取得等に国が6割程度助成する制度。武雄市では、自己負担なしでスキルアップできるよう助成。

居場所：児童扶養手当支給者にファミリーサポート事業の無料体験券を支給。体験後は安く利用できるように補助。

住まい：ひとり親家庭に定額で貸し出しする家主に改修費を補助。空き家対策を兼ねる。

課設置後の動き

- ・国や県の指標だけでなく、市独自の指標を検討
- ・既存事業の整理と体系化（既に各課で行っている事業を貧

	<p>困対策という視点で整理して体系化。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 庁内ワーキンググループの設置を目指す（生活保護など兼務のない部署との連携） ・ 実態把握、ニーズ、資源量調査をし、実行計画の策定を目指す。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「貧困」の定義をどう定めるか。 どうやって武雄市の子どもの貧困率を出していくのか。独自で出しても、他の自治体との比較ができない。 ・ 実態把握等の調査方法、対象者、内容（項目） アンケート調査を実施予定。大学の先生やコンサルを入れて作成していきたい。世帯の収入など個人のプライバシーに関することもあり、内容に関しては慎重にならざるを得ない。
<p>考察</p>	<p>武雄市民病院の民間移譲について 経過に詳しくあるように、当病院と本市の公立病院とはまったく異なるものであった。医局の医師派遣の問題、開業医との連携問題などは学ばされる点があったが、市民の70%の要望で実現した篠町の市立病院にとっては、医療圏における市民にとって必要な規模の病床数を確保することが必要である。なお、（民間移譲にあたって）事業の評価委員会を立ち上げ、診療科目を増やされた努力は重要と考える。</p> <p>子どもの貧困対策課の新設について 国が子どもの貧困対策の推進に関する法律を施行し、県が計画を作り、連携して武雄市がその具体化をはかったプロセスが第1に重要。その上にたった、8項目のアンケートは、実態に見合ったものであり、本市としても早急に具体化を図り、推進していく内容と考える。</p>
<p>委員の意見等</p>	<p>武雄市民病院の民間移譲について</p> <p>< 平本副委員長 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利便性の良い場所への移転や、新築病棟であることが実績に結び付いたことが大きいのではないかと。 ・ 民間への丸投げではなく、行政がしっかり運営に携わり、意見を反映させるシステムは大変参考になった。 <p>< 富谷委員 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本市も赤字経営や医師確保難に直面してはいるが、新病院長のもと、医師確保は改善方向である。医師会との連携を

強化し在宅強化に努めるとのことであり、今後の展開を見守りたい。しかし、もっと身近に市民病院を活用していただく新たな試みは必要。

- ・ いざという時の選択肢に民間移譲もありうると考えるきっかけにはなった。しかし本市は、市民の熱い要望の中建設された市立病院として、万全を尽くし、あらゆる努力をし、医師会ともよりパイプを太くし、市立病院の存在を高める努力を期待する。
- ・ 総合病院ではあるが特色が必要。例えば救急病院として小児科に特化できる医師確保や、介護と医療をつなぐ拠点機能強化等、地域の病院の中でも選ばれる要素が必要と考える。

< 小川委員 >

- ・ 山の手にある国立療養所を引き継いだため、交通の不便、結核病床の利用率低下、高コスト収益の悪化など、本市の状況とは違う面が多い。
- ・ 経営改善や医師の確保はどこでも課題だが、地域医療と連携しながら不便さを感じさせない、また特化した診療科目のある市民病院の位置づけも必要だと思う。

< 奥村委員 >

- ・ 本市と医療環境が随分違う。武雄市の周辺に大きな病院もなく、市民の医療サービスを確保する事を何よりも優先し、病院の存続を第一に考えられた。
- ・ 亀岡市立病院は市民の70%以上の要望があって建設した病院、武雄市民病院は国立病院(結核診療所)を無償譲渡された病院である。比べるのは躊躇するが、地域に必要な病院(医療)は必ずしも市民病院(市経営)とは限らないことは確かである。
- ・ 病院を作るには都道府県の許可が必要であり、新しく作るのはなかなか難しいので、民間は他の病院を買収して拡大していく。福岡の病院も同様にされたのであり、本市とは少し状況が異なる。

< 福井委員 >

- ・ 民間移譲したが評価委員会があり、診療科なども企業の論理で縮小されないようになっており、民間病院でありながら市民ニーズに応えるような運営をされている。このような視点は勉強になった。
- ・ 亀岡でも、実際に即して、市立病院をどうしていくのか、

	<p>慎重に考えていきたい。</p> <p>こどもの貧困対策課の新設について</p> <p><平本副委員長></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際は各担当との連携によるプロジェクトチーム。縦割りで区切られるよりは、各担当課の兼務というのも1つである。ただし、貧困の問題には多くの課題があるので、今後事業が本格稼働した後の対応が課題である。 <p><富谷委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・兼務ではあるが、具体的に課を作る意義は大きい。現状調査をはじめ、既存事業から新規事業への展開と具体的な流れができる。 ・本市も責任部署を位置づけ、まずは現状把握、課題摘出をすべき。子ども食堂や学習支援等、小さな動きは見られるが、包括的な実態調査の動きが必須。児童虐待や不登校、閉じこもり等、横断的な課題解決にもつながっていく。 <p><小川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育政策課や学校教育課・くらし政策課・福祉課などの職員が一つのチームのような形で取り組まれている。各部署で情報共有でき、横断的な連携が図れる。重点的に対策を取るためには、このような行政の取り組みと地域との連携が必要。 <p><福井委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆるい連携かもしれないが、それでも各課に他の課と繋がることのできる人がいる。本市では部長を対象とした横断的な会議は多いが、下はあまりない。実践の場が繋がりを持てるのは良いことである。
--	---

視察先	福岡県久留米市 人口 306,383 人 面積 229.96 km ²
視察日時	平成 28 年 5 月 19 日 (木) 10:00 ~
視察等の名称	子ども・子育て支援について 子育て交流プラザ「くるるん」について
視察の目的	「かめおか・未来・チャレンジビジョン」に掲げられる「子育て・教育で憧れのまちに」の方針のもと、今後、子育てしやすいまちづくりに向けての取り組みが進められる。そのような中、「全国トップクラスの子育てしやすいまち」を目指して子育て支援の充実が図られている久留米市の様々な取り組み

	<p>みを学ぶことにより、今後のまちづくりの参考とする。</p>
<p>視察等の概要</p>	<p>子ども・子育て支援について</p> <p>久留米市における子ども・子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育料軽減（国基準比較35%軽減） ・産婦人科、小児科の医師の数（政令市・中核市で全国1位） ・小児救急医療体制、乳幼児医療費助成、地域の子育て支援の充実 <p>地域の子育て支援の主な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「親子でふれあう、親子で遊ぶ」施設 <ul style="list-style-type: none"> 地域子育て支援センター（市内9カ所） <ul style="list-style-type: none"> 市の直営。公立保育所併設6カ所、他3カ所 正規保育士1名、嘱託保育士1名常駐 子育て交流プラザくるるん（市の中心部に設置） <ul style="list-style-type: none"> 平成14年開設 西鉄久留米駅隣ビル5階 NPO法人へ運営委託 年間約5万人利用 児童センター（市の中心部に1カ所） <ul style="list-style-type: none"> 市の外郭団体に運営委託 年間約5万人利用 信愛つどいの広場（市内の短期大学が週に3回程度サロン事業を実施） 校区サロン（各地域コミュニティで月1～2回実施） <p>情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くるめ子ども子育て支援フェイスブックページ ・久留米市子育て支援情報サイト <ul style="list-style-type: none"> 子どもの年齢を事前に登録。年齢に対応した情報をメルマガなどで発信。 ・くるめ子育て便利マップ <ul style="list-style-type: none"> 毎年改定。子育て中の市民に編集委員として参加してもらい作成。1万3千部発行。 <p>子どもの貧困について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親家庭への支援として、「くるめ子育て便利マップ」に情報を掲載。 ・今年度から「子ども食堂事業費補助金」を新設。 <ul style="list-style-type: none"> 補助基準額 <ul style="list-style-type: none"> 運営費 <ul style="list-style-type: none"> 月1回開催：10万円まで 月2回開催：20万円まで 月3回開催：30万円まで 施設整備費 1回に限り20万円まで <p>食中毒やアレルギーなど配慮事項が一番難しい。</p>

	<p>予算：一般財源500万円</p> <p>子育て交流プラザくるるんについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特定非営利活動法人 子育て支援ボランティアくるるん」が市の委託を受けて運営。 ・理事9人、顧問3人、幹事1人でNPOを運営。登録ボランティア91人（うちスタッフ9人、保育士4人） ・1400万円程度の委託費は、ボランティアの交通費（2時間半で1080円）スタッフと保育士の人件費、事業の講師謝金等に充てている。 ・税理士や司法書士が、NPOの会計管理や事業報告書の作成に無償で協力。 ・生活困窮や虐待相談など、市の担当課など専門機関にうまくつないでいる。 ・ボランティアのなり手が少ない。年に2回パートナー養成講座を行っているが、活動に繋がる人が減っている。
<p>考察</p>	<p>本市とほぼ同じ市域を持つ久留米市は、3倍の人口を有する市である。そういう条件の中で、様々なきめ細かい子ども子育て支援策を行っており、学ぶ点が多かった。ただ、公的保育という点でもう少し突っ込んだ調査が必要であった。</p> <p>「くるるん」は通勤上至便の位置にあり、共働きの若い家族の利用も多いと感じた。しかし、若い世帯の働き方の問題（非正規やダブルワーク等）を考える時、スタッフの充実が何よりも必要である。設立メンバーなど、熱い思いで運営されている様子がうかがい知れ、感動したが、同時にボランティア任せでは、この事業の未来に向かった継続に課題が残るとも感じた。突き詰めて行くと、保育士の労働条件の改善を国が先頭に立って行い、自治体はその努力を強化する事に他ならず、財政措置をきっちり行うことと思う。</p>
<p>委員の意見等</p>	<p>子ども・子育て支援について</p> <p><平本副委員長></p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童会の時間延長は、本市でもぜひ取り組んでいきたい。 ・「子ども食堂の呼びかけ＝貧困」と結びつくと、子どもに來てもらうのにハードルが上がるとのこと。本市ではアンケートをどうしていくか、また、子ども食堂＝貧困とならな

いように注意が必要。

< 富谷委員 >

- ・子ども食堂は、その場での学習支援や生活習慣習得の支援をセットにすることで効果が望める。民間や地域の力により、生活圏内に子ども食堂があれば、地域の一人暮らしの人も参加でき、地域のコミュニティが広がる。本市も、検討委員会等の動きを形あるものにして、対策を講じてほしい。
- ・子育て支援については、受け皿の充実度が素晴らしい。今年オープンの久留米シティプラザにも子育てイベント会場、憩いのまちなか広場、遊具がそなえられ、ファミリー参加のにぎわい拠点になっている。周りに児童センターや図書館もあり機能的。

< 小川委員 >

- ・世代に対応した情報発信が素晴らしい。「子育て便利マップ」も、市外にある誤飲事故相談情報や外国人のための相談窓口も記載されている。情報が簡潔に、大変分かりやすく提供されている。
- ・本市では、子どもの貧困対策・いじめ・虐待や発達障害などの取り組みを含め、「子育て・教育であこがれのまち」として、取り組みをさらに具体化していくべき。議会では、例えば2つの常任委員会で、福祉・教育・子育て支援などを含めた政策研究の取り組みも必要。行政よりも一貫して取り組める体制の研究も必要である。

< 奥村委員 >

- ・行財政改革により公立保育所の再編計画を進められている。保育サービスは同じとはいえ、民間では結婚や出産で退職する保育士が多い現状で平均勤続年数は短い。労働条件も厳しく、保育所のキャパはあっても、保育士が確保できず子どもを受け入れられないこともあるようである。民営化を進めることを否定はしないが、行政としても民間保育所に十分な支援と指導をする必要がある。あれだけ良い保育所があるから亀岡市に住もうと思えるような施策を市がしていかなければならない。

子育て交流プラザくるるんについて

< 平本副委員長 >

- ・NPOに委ねるまで、長年の活動を通じて改善されてきた

	<p>経過を見ると、すぐさま本市での実施は難しい。長期間かけて十分検討を行い、取り組む必要がある。</p> <p>< 富谷委員 ></p> <ul style="list-style-type: none">・広い場所で、いろいろなサービスを1カ所に集中されているのが良い。自由に飲食できるスペースがあり、休日預かり保育もある。休館が月2回しかなく、子育て世代の強い味方である。・人材はボランティアでまかなっているが、責任者に後がないのが課題とのことである。どこでも人材の課題がある。財政支援の拡充が必要。 <p>< 小川委員 ></p> <ul style="list-style-type: none">・立地条件がとても良く、買物などの際にも便利である。 <p>< 奥村委員 ></p> <ul style="list-style-type: none">・親子で過ごせるフリースペースの広さに驚いた。毎月いろんな行事を企画されて多くの人利用されている。西鉄久留米駅前の第3セクターが運営するビルに入っているが、年間家賃が5千万円を超えると聞き大変驚いた。 <p>< 福井委員 ></p> <ul style="list-style-type: none">・年間5万人の利用実績があるが、年間賃借料5千万円、NPOの運営費に1400万円を支出している。国3分の1、県3分の1、交付金、補助金を使っているが、費用対効果や行政規模も勘案する必要がある。
--	---